

情報戦略

学内情報の流れを統合的に管理し情報の付加価値を高め、「戦略情報」の創出を強化し、様々な施策の立案・実行に活用しています。また、DXの推進や情報システム基盤の整備・機能強化にも取り組んでいます。

TOPIC

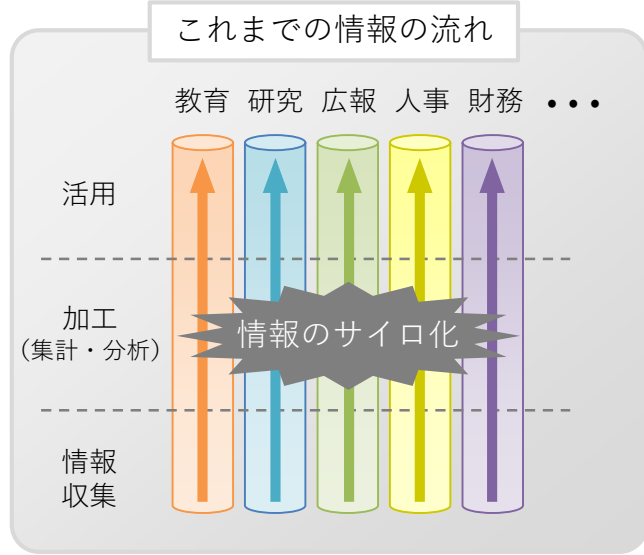
IR機能の強化を図るため、戦略企画室の情報戦略部門の改組を行い、新たにIR機能に特化した「総合IR戦略部門」を設置しました。

(→P.128「戦略情報に関する機能強化」)

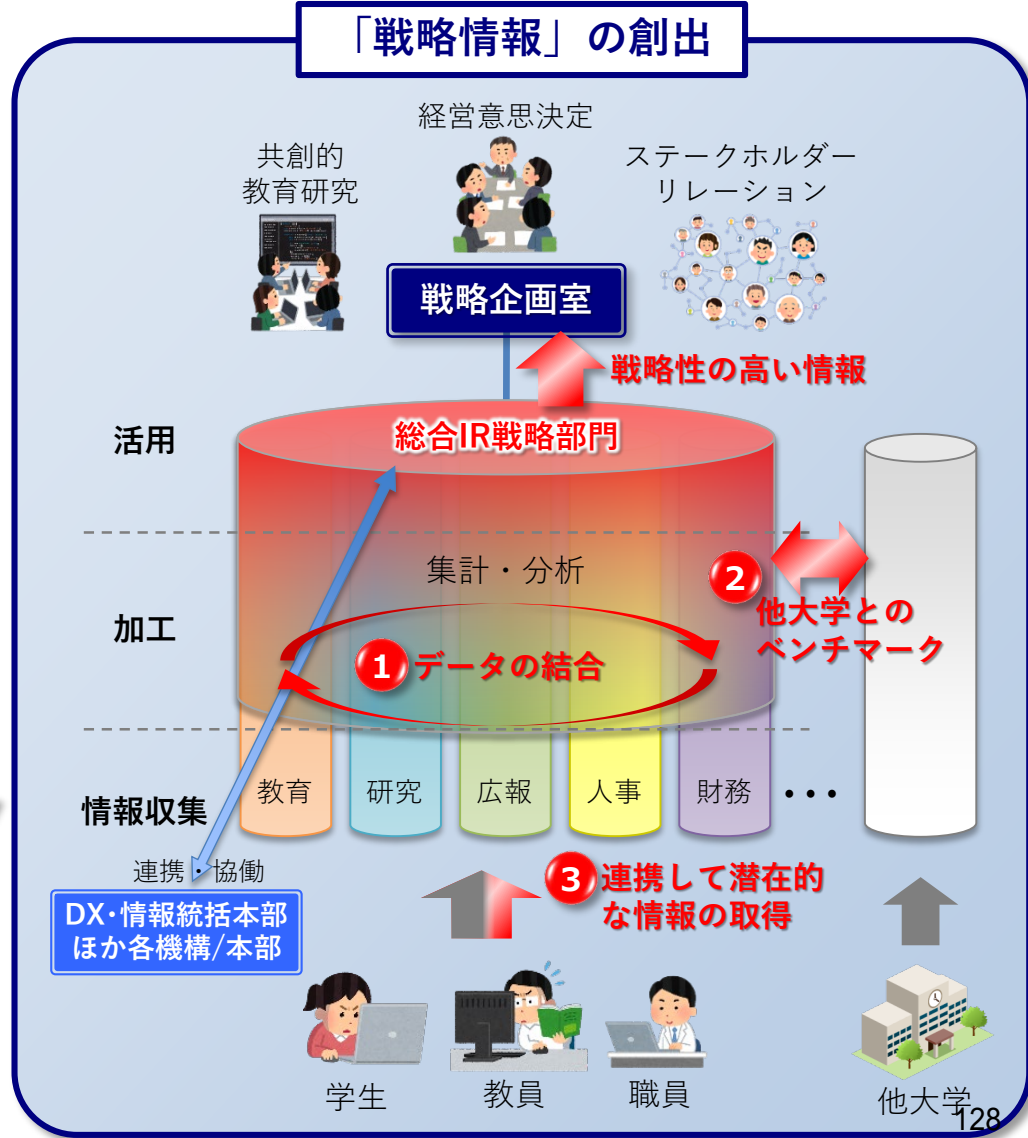
戦略情報に関する機能強化

総合IR戦略部門の設置により、学内の情報の流れを統合的にして情報の付加価値を高め、戦略的な経営意思決定・共創的教育研究・ステークホルダーリレーションに当たってより意味のある情報＝「戦略情報」の創出を強化。

- サイロ化された情報の流れに横串を差し、データの結合を進め、**情報量豊かな**形で総合的に**データ**分析。
- 他大学の情報収集を強化し、ベンチマークすることで、**本学の位置を明確化した情報**を提供。
- 各部門と総合IR戦略部門の連携により、今はデータ化されていない**潜在性の高い情報**の収集を強化。
- 統合的に収集・蓄積・分析した**付加価値の高い情報**を、エビデンスベースの意思決定、教育研究における共創や質向上、多様なステークホルダーとのコミュニケーションのために活用。



機能強化



DX推進の神戸大学モデル構築・推進

プラス面向上とマイナス面削減による創造的活動支援

教育のDX

有能人材の育成

狙い：時間、空間、分野、世代などの様々な制約を超越した創造的な学びを実現

取組：教育環境・教育支援、学修効果増進・学修管理等

インタラクティブな学び
ボーダレスな学び

教育環境 } 拡充
学習支援 }

シンプルな仕組み

神戸大学モデル

- 単なる改善・デジタル化推進に留まらず、分野・組織の壁を越えた協力関係を発展させた取組
- 俯瞰的な視座からあるべき姿を見定め、これを実現するための課題を抽出・明確化するアプローチのもとでの変革を推進

取組基盤

- DXプロジェクト**：全体最適の視点から、あるべき姿の検討、課題の抽出・解決等
- DXラウンドテーブルミーティング**：DXがもたらす将来像やその実現に向けての課題について議論
- DXプレイグラウンド**：新しいテクノロジーやアプローチを体験・体感できる場

研究のDX

傑出した知の創成

狙い：卓越した研究成果を創出・共創する知の集積、社会課題解決・新領域開拓のための異分野共創研究環境の整備

取組：研究企画、研究環境等

多様なコネクション

協働環境 } 拡充
共創支援 }

スマートな研究推進

業務のDX

卓越環境の創出

狙い：創造的活動・知的活動を展開するための場・時間の確保

取組：教育、入試、研究、国際交流、産官学連携、地域連携、総務、広報、施設整備、財務、人事等の業務全般

高度・良質な業務

部署間連携 } 拡充
教職協働 }

効率的・簡素な業務

情報システム基盤の整備・機能強化 KAISER, KHAN を核とした基盤整備と人材育成

情報サービス基盤(KAISER)

研究教育系基盤

- ・プライベートクラウド環境
学内システムサーバ環境
- ・Web系サービス
- ・個人メール (Microsoft365メール)
- ・メーリングリスト
- ・学習支援システム(LMS)
- ・Webベースプログラミング環境



グループウェア (Garoon)

全教職員のコミュニケーションツール



業務系統合プライベートクラウドシステム

(KUSHINADA) (2019導入、2026更新)
人事給与システム、会計業務システム、
労働時間管理システム他
業務デジタル化対応システムの追加



ネットワーク基盤(KHAN)

学外接続

- ・SINET接続の更新(SINET6)
(学術情報ネットワーク経由でインターネットへ)
- ・VPN (セキュアな接続の拡充)

各サービスの利用
インターネットアクセス

各サービスの利用

学内ネットワーク

- ・学内ネットワーク、キャンパス間接続の安定運用
六甲台、深江、楠、名谷、その他
- ・プライベートネットワーク化の更なる促進



- ・無線LANシステム増強、強化
eduroam、ビジター用



外部サービス

クラウドサービスの充実・最適化

- ・Microsoft365
Teams
PowerPlatform
- ・Google Workspace
for Education

インターネット利用

- ・学外からの利用



ICT人材育成

情報基盤の維持管理・強化

- ・情報セキュリティレベルの向上
(全構成員へのセキュリティ研修)
- ・アプリケーション研修
(人材育成)
- ・DX推進に向けての技術的サポート
- ・デジタルツール利用促進のための相談窓口整備
- ・高度なICT基盤整備のための人材育成



認証基盤

各サービスへのログイン

ネットワーク利用のための認証

各サービス接続のための認証 (統合ユーザー管理システム)

- ・人事給与システム、教務システムからのデータ連携
- ・構成員を認証する仕組みの高度化 (二要素認証への対応)

外部連携のための認証システム

- ・学術認証フェデレーション (CiNii、SpringerLink、EndNote Web (附属図書館) 他) の随時拡大



2030年までのロードマップ



中期目標期間		第4期					第5期	
年度		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028～2030年度
神戸大学 モデルの DX推進	教育のDX	デジタルを活用した教育の プレイグラウンドの整備		デジタルを活用した教育の 全学(共通教育・専門教育)展開 のための基盤整備		デジタルを活用した教育の 評価・検証および高度化		“人”を創るDX
	研究のDX	異分野共創研究に資する マッチング基盤の整備		異分野共創研究を創出する コミュニケーション場の整備		異分野共創研究を加速する 仕組みの構築		“知”を創るDX
	業務のDX	業務効率化・削減のための DX基盤整備		業務の質向上のための DX基盤整備		業務効率化・削減のためのDX, 業務の質向上のためのDX の発展・展開		“環境”を創るDX
情報システム の基盤・ 機能強化	情報サービス 基盤	KAISER2022 導入	KAISER2022の安定運用					教育・研究戦略に 対応した新KAISER
	認証基盤		新KAISER構想の検討		新KAISERの仕様策定・導入			
	外部サービス							
	ネットワーク 基盤	KHAN2017の安定運用			KHAN2025の稼働開始・ 安定運用			
	ICT人材育成	ICT人材の育成・強化 & 一般職員のICTスキル向上					ICT体制の(半)確立	

たゆまざる情報の収集・発信と利活用促進 附属図書館情報戦略



教育支援

教養・専門教育を支え新たな価値創造環境を強化する

■学修資料の整備

- ・教科書・シラバス掲載資料など、教養教育・専門教育を支える基本的な資料を整備する
- ・百科辞書・専門分野の事典などを整備する
- ・電子ブック・新聞データベース・電子教材などを整備する

■情報の活用支援

- ・「情報」の探し方等に関する基本的な情報リテラシーの習得を支援する
- ・文献管理ソフトウェアなど情報活用ツールの利用を支援する
- ・学生の能動的学修を誘発する広範な支援を行う

■研究資料の整備

- ・研究に不可欠な電子ジャーナルやデータベースなどの購読を維持する
- ・費用対効果に留意し、大学が必要とする資料を戦略的に整備する

■学術成果のオープンアクセスの推進

- ・神戸大学の教育研究成果（学術論文・博士学位論文・紀要論文・教材・研究データなど）を集中的に整備し、DOIを付与して学術成果リポジトリにより公開することで他機関等からの可視性、利便性を向上させる
- ・様々な方法での学術成果のオープンアクセスへの支援を行う

研究支援

研究のインフラを維持するとともに神戸大学の教育研究成果を公開することで可視性を向上させる

社会貢献

大学や地域の記録を保存するとともに電子化・公開を進める

■デジタル・アーカイブの構築を通して デジタル・ヒューマニティーズの基盤を形成

- ・図書館が所蔵する貴重書など様々な資料の電子化・公開を進める（震災文庫、新聞記事文庫、神戸開港関係資料ほか）
- ・関係部局等と連携して大学や地域の記録を収集・保存し、電子化・公開を進める

■神戸大学の歴史を伝える

- ・大学文書史料室を中心に神戸大学の歴史に関する資料（歴史公文書等）を収集・保存するとともに一般の利用のため調査業務や展示・公開を行う
- ・神戸大学120年史編集刊行事業を推進する

■学修環境の整備

- ・多様なアイデアを引き出し主体的な学修活動を促進するため「ラーニングコモンズ」を整備する
- ・個人学習のための「自習室」を整備する
- ・資料を用いて学習・調査するための「閲覧室」を整備する

■資料を活用した知の交流

- ・独自性のある資料や教科書にでてくるような著名な図書を活用した展示・解説をおこなうなど知の交流事業を実施する

知の広場

神戸大学全構成員の情報インフラとして現実空間・仮想空間双方に知の交流のための広場を展開する

知的刺激と交流をひろげる 附属図書館



課題と現状 DX進展への対応

■ デジタルアーカイブの構築・学術成果のオープンアクセスの推進

■ 情報リテラシー教育の推進
・ 図書の探し方、情報の探し方、データベースの検索方法などの講習会を実施

■ ラーニング commons の整備
・ 人文科学図書館(2013), 社会科学系図書館(2014), 総合・国際文化学図書館(2015), 保健科学図書室(2021), 自然科学系図書館(2023)

■ 図書館室の協同によるスペースの有効活用

展望

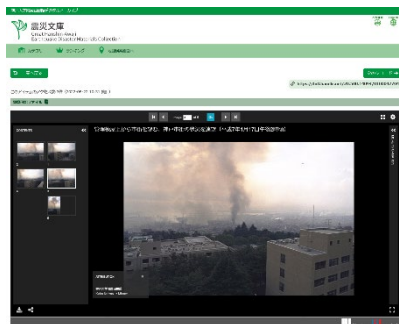
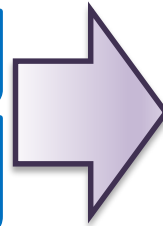
2025 から 2030 へ

・ 資料電子化に要する経費の確保をはかるとともに大学・地域の記録・記憶である資料や貴重資料等の電子化・公開を行うとともに、リポジトリや様々な方法での学術成果の公開を進める

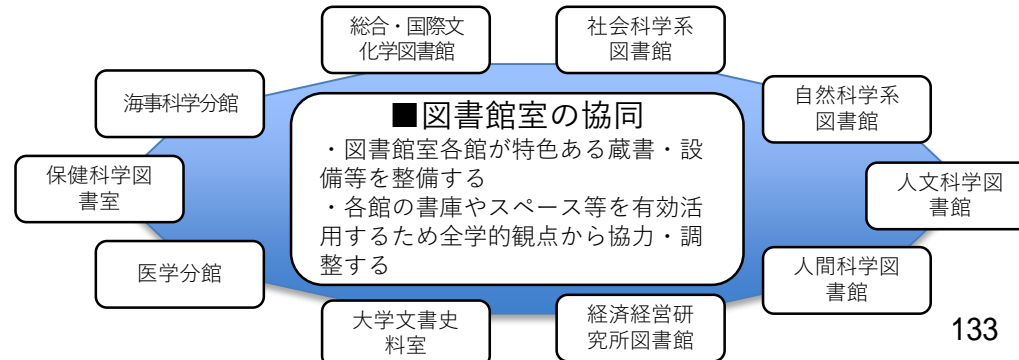
・ YouTubeやZoom等を活用し、情報の取扱いに関するセミナー等の内容を充実させる

・ 多様な人との交流・議論・協同・創造的学習のための空間であるラーニング commons を海事科学分館・医学分館にも設置し、イノベーションをうみだす価値創造空間としての活用を促進する

・ 全学の図書館室が協力し、各館の特色を活かしつつ、全学的観点からスペースの有効活用を図る



- 新聞記事文庫
Newspaper Clippings Collection
- 震災文庫
Great Hanshin-Awaji
Earthquake Disaster Materials Collection
- 貴重書・特殊コレクション
Special Collections
- 神戸大学学術成果リポジトリ
KERNEL - Kobe University Repository



2030年までのロードマップ



中期計画期間	第4期						第5期
	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028～2030年度
教育支援	学修資料の整備 (学生用資料・電子ブック・新聞データベース・電子教材など) 学生用資料の充実、電子ブック拡充、学習用データベース・電子教材等の提供による教育支援						学生用資料費確保による 学習資料の整備
	情報リテラシー教育・利用者支援の推進 (ガイダンス・セミナー等の充実) 図書館DXによる利用者支援の検討・推進						図書館DX推進 による利用者支援
	図書館室の協同によるスペースの有効活用 (ラーニングコモンズ・書庫等の共同利用) 自然科学系図書館 ラーニングコモンズ完成 → 共同利用書庫 運用開始 → 海事科学分館 深江キャンパス再開発による改修検討						ラーニングコモンズ 活用による学習支援
知の広場	資料を活用した知の交流事業 (毎年テーマを決めて資料展を開催) 古典籍でみる鎖 国下の漂流 → 1933社会科学系図 書館誕生90周年 → 阪神・淡路大 震災30年 → 2025年度以降 震災資料・古典籍等を利用した資料展						社会貢献となる 資料展の継続開催
	デジタルアーカイブの構築 (震災文庫、貴重資料などの電子化・公開) 新聞記事文庫のテキスト 化(2022科研費) → 人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化事業委託業務による 新聞記事文庫、震災文庫および貴重資料の電子化 歴史的典籍ネットワーク事業に よる古典籍の電子化						新聞記事文庫 戦前期 公開完成 資料電子化・公開推進
社会貢献	学術成果のオープンアクセスの推進 神戸大学の教育研究成果(学術論文・博士学位論文・紀要論文・教材・研究データなど)の公開 学術論文等の即時OA化対応						学術成果の電子化・ 公開推進
	教育研究基盤資料の整備 (電子ジャーナル・データベース) 全学利用分の全額負担および35%金額補助(特定主題)を実施 → 新制度の全学利用電 子ジャーナル・デー タベース提供 学内アンケートに よる利用調査実施 → タイトル 等見直し						電子ジャーナル・デー タベースの維持提供に による教育研究支援
研究支援							